科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名<英訳>	ILASセミナー ：現代思想と精神分析 ILAS Seminar :Contemporary Theory and Psychoanalysis			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　松本　卓也		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	受講定員(1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	共北35			使用言語	日本語
キーワード	現代思想 / 精神分析 / 精神病理学 / フランス思想 / 哲学						

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

現代の精神分析（ラカン派）および精神病理学の理論的背景を、発表と議論を通じて体験的に理解する。

[到達目標]

文献を正確に読解する能力、それを独自の観点から論じる能力、発表に対する質問力などを総合的に養う。

[授業計画と内容]

本セミナーでは、現代の精神分析（ラカン派）および精神病理学の理論的背景を理解するために、下記に示すような、いわゆる「フランス現代思想」関連の日本語文献（予定）を読み解いていく。いずれの文献も、何らかのかたちで精神分析および精神病理学を理解する上で示唆に富む代表的な論文であり、それらを単にひとつの「心の治療（法）」としてのみ捉えるのではなく、思想や政治などの幅広い文脈のなかにおいて捉えるための土台となりうるものである。

1.浅田彰「ラカン　構造主義のリミットとしての」（『構造と力』所収）
2.中沢新一「病のゼロロジック」（『チベットのモーツァルト』所収）
3.柄谷行人「形式化の諸問題」（『差異としての場所』ほか所収）
4.東浩紀「郵便的不安たち――『存在論的、郵便的』からより遠くへ」（『郵便的不安たちβ』所収）
5.東浩紀「精神分析の世紀、情報機械の世紀」（『サイバースペースはなぜそう呼ばれるか』所収）

6.東浩紀「想像界と動物的通路」（『サイバースペースはなぜそう呼ばれるか』所収）
7.田中純「ポスト郵便都市」（『都市表象分析I』所収）
8.佐藤嘉幸「服従化=主体化は一度限りか」（『新自由主義と権力』所収）
9.千葉雅也「切断論」（『動きすぎてはいけない』所収）
10.千葉雅也「インフラクリティーク序説」（『思想地図β vol.1』所収）
11.千葉雅也「思弁的実在論と無-解釈的なもの」（『身体と親密圏の変容 (岩波講座 現代 第7巻)』所収）
12.國分功一郎「構造から機械へ」（『ドゥルーズの哲学原理』所収）
13.立木康介「精神分析の反メタ言語論」（『精神分析と現実界』所収）
14.立木康介「症状なき主体は彷徨う」（『露出せよ、と現代文明は言う』所収）

なお、初回講義ではオリエンテーションを行うが、2回目以降の講義では履修学生による発表・討議が行われる。積極的な参加が望まれる。

ILASセミナー ：現代思想と精神分析(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：現代思想と精神分析(2)

授業回数はフィードバックを含め全15回とする。

[履修要件]

上記の講読リストにあげられた著者や関連人物の論文ないし著作に関心をもっていること。

[成績評価の方法・観点]

発表内容（50%）・授業への参加度（50%）。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回に取り扱う論文をあらかじめ読んでくること。
なお、授業外学修には、いわゆる「予習・復習」だけでなく、授業のなかで学んだことを各自の自習や日常や課外活動のなかで応用・実践し、生きた知識にすることも含まれる。

[その他（オフィスアワー等）]

総合人間学部の学生は、「基礎演習」として履修すること。総合人間学部便覧のシラバスを確認のうえ、第1回授業に必ず出席してください。

[実務経験のある教員による授業]

①分類
実務経験のある教員による実務経験を活かした授業科目

②当該授業科目に関連した実務経験の内容
精神科医師・公認心理師としての様々な領域での臨床実務経験

③実務経験を活かした実践的な授業の内容
精神科医師・公認心理師としての様々な領域での臨床実務経験にもとづいて、精神分析学・精神病理学の知識を体験的に教授する。